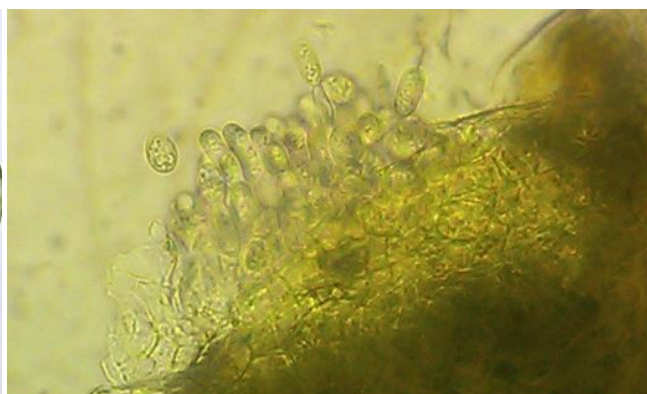


キュウリ果実のちょっと変わった症状

1. キュウリ炭疽病

リング状に曲がった内側に、陥没や亀裂が見られます。亀裂の周囲には、炭疽病菌の分生子が形成されていました。この症状は、幼果時に果実の片側に感染し、肥大成長が阻害されたことによるものです。



2. キュウリ灰色かび病



果実先端が細くなり、やや黄化も見られます。縦割りにしてみると、細くなった部分の内部は褐変しており、灰色かび病菌が侵入していました。

花ガラに付いた灰色かび病菌が、花落ち部から果実内部に侵入したものです。多湿条件下で花ガラが残っていると、灰色かび病菌を呼び寄せることとなります。花ガラは早めに除去して下さい。

この症状は出荷後も進展し腐敗果となるので、注意が必要です。

3. キュウリ綿腐病

純白、綿状の菌糸が果実を覆い、軟化腐敗します。病原菌は、生育適温 34～36℃、最高 46℃でも生育するため、夏期高温時の市場病害として発生します。夏期集出荷時は多湿に注意して下さい。

病原菌はピシウムで卵菌類に属します。卵菌類の菌糸には隔壁がありません。

